

環境検討部会（第3回） 議事概要

1. 日時：平成29年9月12日（火） 13：00～15：00
2. 場所：思川西部土地改良区 会議室
3. 議事概要

今年度の夏季調査までの段階では、特に加えるべき保全対象種の議論については、部会全体の認識で必要ないということになった。

渡良瀬遊水地に外来種が多く存在していることから、地区内の排水路に、外来種が侵入してこない対策というのも念頭に置いていくこととなった。

国営で改修する幹線水路の計画敷高が現況より下がると、幹線水路と支線水路の落差が大きくなるので、接続部分について、水の連続性を工夫し、うまく繋げるなどして今よりも悪くならないように検討することとなった。

計画水位に対して、支線排水路との合流が上になるのか、下になるのか、いづれ図面に整理してほしいとの意見があった。

説明があったアンダードレーンの開口部を利用したナガエミクリの生育場について、ワンドみたいな拠点型ではない、全体に生き物が住めるような場所を配置することが大事であるとの意見があった。

ワンドの開口部の底質は、土やクラッシュラン、栗石など複数の素材を用いることを検討することになった。

対策工の形状、施設の維持管理のあり方について、関係土地改良区、多面的機能支払交付金活動組織、地元自治会等への説明会やワークショップを実施し、検討を進めていくことになった。

ワンドの形状は、排水路本線とワンドの間に隔壁を設け、本線は排水を優先し、ワンドは生き物の生息や、地域の方々の利用を考えるという案に部会全体の合意を得た。

かんがい期には堰上げて取水するため、どうしても堆砂してしまうと思うので、堆砂が想定される辺りでは護岸や、重機の進入が可能なよう配慮をするこ

となった。また、土砂処分についても維持管理の課題であるとの意見があった。

ワンドの堆砂については、水理的な解析の可能性について検討する。

ワンドの法面を石積みにすると、目地から草が生えて管理が大変であるため、管理の面も考えて法面をどのように施工するか検討することとなった。

（午前中に現地調査を実施した経営体育成基盤整備事業で造成した）深津地区の環境配慮施設で、ワンドの底が泥だと重機が沈んでしまうという話があり、ワンドの底はある程度硬いものが基盤である必要があるので、そういったところも検討することとなった。

曲線部の流れを利用して、流れや底質の多様性を創出することができるとよいとの意見があった。